

## 会議概要

会議名①	建設分野・デュアル教育推進委員会		
目的	学校・産業界の双方にとって、より効果的な教育を実施するためのガイドラインの作成について協議する。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①企業・業界との連携のあり方</li> <li>②企業内実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方</li> <li>③職種に応じた企業内実習のカリキュラムの開発</li> <li>④企業内実習の学生活動評価のあり方</li> <li>⑤企業内実習と授業との相関を図るシラバスの開発</li> <li>⑥企業内実習の成果と課題</li> </ul>		
委員数	28人	開催頻度	2回

会議名②	施工部会		
目的	実証結果を踏まえて、施工分野の企業内実習のあり方について協議し、デュアル教育推進会議に提案する。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施工関係企業との連携のあり方</li> <li>②施工分野実習のカリキュラムの開発</li> <li>③施工分野実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方</li> <li>④企業による学生評価のあり方</li> <li>⑤施工分野実習の授業との相関を図るシラバスの開発</li> </ul>		
委員数	9人	開催頻度	2回

会議名③	設計部会		
目的	実証結果を踏まえて、設計分野の企業内実習のあり方について協議し、デュアル教育推進会議に提案する。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①設計関係企業との連携のあり方</li> <li>②設計分野実習のカリキュラムの開発</li> <li>③設計分野実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方</li> <li>④企業による学生評価のあり方</li> <li>⑤設計分野実習の授業との相関を図るシラバスの開発</li> </ul>		
委員数	14人	開催頻度	2回

会議名④	マイスター(大工・左官)部会		
目的	実証結果を踏まえて、企業内実習のあり方について協議し、ディアル教育推進会議に提案する。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大工・左官関係企業との連携のあり方</li> <li>②大工・左官分野実習のカリキュラムの開発</li> <li>③大工・左官分野実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方</li> <li>④企業による学生評価のあり方</li> <li>⑤大工・左官分野実習の授業との相関を図るシラバスの開発</li> </ul>		
委員数	10人	開催頻度	2回

会議名⑤	ガイドライン評価・検証委員会(推進委員会において評価・検証)		
目的	業界・企業・教育機関がそれぞれの立場から、作成したガイドラインについて評価・検証し、課題の顕在化を図る。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①企業内実習の実施方法は実証を踏まえて、適切に改善されているか。</li> <li>②企業との連携のあり方を適切に示しているか。</li> <li>③事前指導・実習中指導・事後指導のあり方は、有効・有用なものとなっているか。</li> <li>④企業内実習カリキュラムは、巧みに工夫されたものとなっているか。</li> <li>⑤企業内実習と授業との相関を図るシラバスは実効性があるものになっているか。</li> <li>⑥作成ツールは、他の専門学校の参考となるものとなっているか。</li> </ul>		
委員数	28人	開催頻度	1回

会議名⑥	第三者評価委員会		
目的	ガイドラインの汎用性を高めるため、第三者評価を行う。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①作成したガイドラインは、全国の建設系専門学校が企業内実習を行うためのマニュアルとなっているか。</li> <li>②作成したガイドラインは、受入企業にとっても有効なものとなっているか。</li> </ul>		
委員数	5人	開催頻度	1回